



評価方法

基準値を上回っており、
昨年度と比較して目標に近づいている場合



基準値を下回っているが、
昨年度と比較して目標に近づいている場合



基準値を上回っているが、
昨年度と比較して目標に近づいていない場合



基準値を下回っており、
昨年度と比較して目標に近づいていない場合

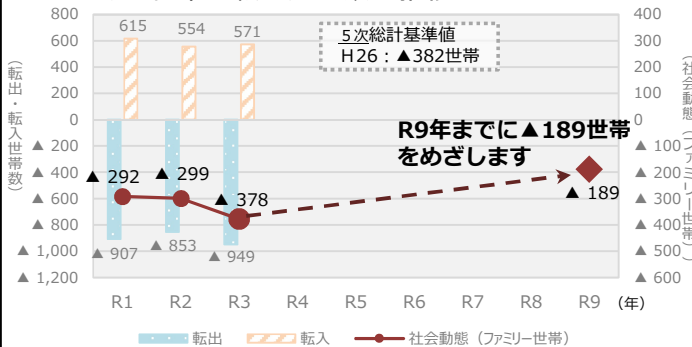


総合指標

① あまがさきで子どもを育てる人を増やす

ファミリー世帯(5歳未満の子どもがいる世帯)の転出超過傾向は、本市の最重要課題の1つです。課題解決に向け、教育や治安・マナーの向上などに総合的に取り組み、転出超過数の半減をめざします。

■ファミリー世帯の転出超過数の推移



【分析結果等】

- ・令和3年のファミリー世帯の転出超過数は378世帯となり、前年より大幅に悪化。
- ・ファミリー世帯を含む人口動態は住宅供給と高い相関関係にあり、近隣市(西宮市・伊丹市・宝塚市)住宅着工数の増が本市の転出者の増に影響と推察。
- ・令和3年度の市民意識調査で、本市に住み続けたいと答えた市民の割合は82.3%と高水準。

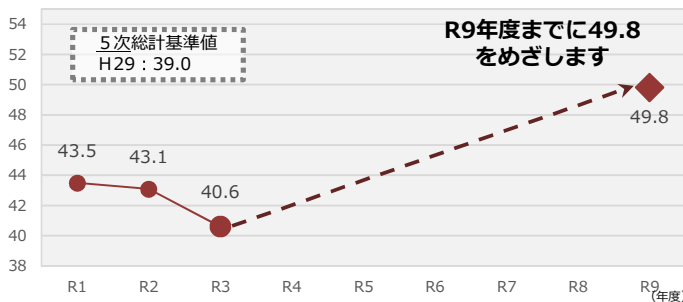
評価欄



② まちのことを想い、活動する人を増やす

まちの課題を解決し、魅力を高めるためには、まちに愛着を持ち、まちづくりに参画する人を増やすことが大切です。そこで、「地域推奨意欲」「地域活動意欲」「地域活動感謝意欲」という3つの意欲を組み合わせた市民参画指数の向上をめざします。

■市民参画指数の推移



【分析結果等】

- ・令和3年度の市民参画指数は40.6となり、前年度と比較して減少。
- ・地域活動に「参加したいけど忙しくて参加できない」という回答が多く、幅広い年齢層の地域活動への潜在的な意欲があると考えられる。
- ・学びや活動を支援する仕組みの充実に取り組み、本市に愛着を抱き、参画の手応えを感じられるような場や機会・交流の創出が必要。

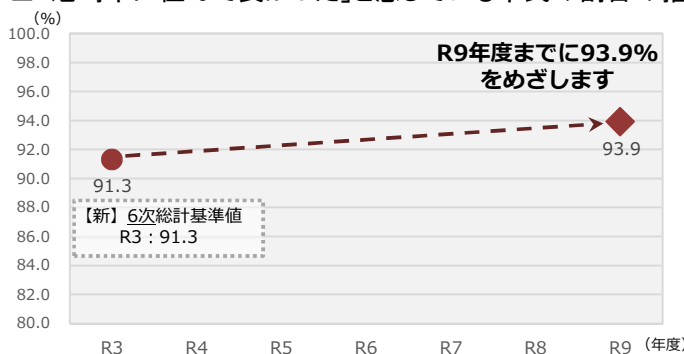
評価欄



③ あまがさきに住んで良かったと思う人を増やす

全国的に人口減少が進行するなか、選ばれ続けるまちであるためには、市民の本市に対する満足度が何より大切です。そのため、居住地としてのまちの評価を測る“市民の実感”の視点として、「尼崎市に住んで良かった」と感じている市民の割合の向上をめざします。

■「尼崎市に住んで良かった」と感じている市民の割合の推移



【分析結果等】

- ・令和3年度の市民意識調査では、「『尼崎市に住んで良かった』と感じている市民の割合」は91.3%と高水準。
- ・年齢別では25～34歳(88.2%)、35～44歳(90.4%)が他の年齢層と比較し低い傾向。
- ・ファミリー世帯の定住・転入促進の観点からも、市民のニーズを的確に把握し、柔軟に対応することが重要。

評価欄

—

主要取組項目

項目		目標	令和2年度	令和3年度	よくできました	できました	もう少し	がんばりましょう
① 子ども・教育	子育てしやすいまちにしたい	市民意識調査で「子育てしやすいまち」だと感じている市民の割合69.2%をめざします。(R9年度)	-	56.9%				
	子どもたちの学力を伸ばしたい	全国学力・学習状況調査における平均正答率の全国との比較において、あまがさきの子どもたちの学力が全国平均を超えることをめざします。(R9年度)	新型コロナウイルス感染症により未実施	(小6) 0~△2 (中3) △2~△4				
② 生きがい・ささえあい	「安全・安心」を感じながら暮らしてほしい	市民意識調査で「安全で安心して暮らせるまち」だと感じている市民の割合76.3%をめざします。(R9年度)	-	61.8%				
	健康寿命を延ばしたい	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加をめざします。 (R9年度) 【平均寿命(R1⇒R2) 男性80.05歳 ⇒80.35歳 女性87.31歳 ⇒87.06歳】 【健康寿命(R1⇒R2) 男性78.48歳 ⇒78.72歳 女性83.72歳 ⇒83.47歳】	男性△1.57歳 女性△3.59歳 (R1年度)	男性△1.63歳 女性△3.59歳 (R2年度)				○
③ 脱炭素・経済活性化	二酸化炭素排出量を減らしたい	二酸化炭素排出量を実質ゼロにする脱炭素社会の実現に向けて、市内の二酸化炭素の排出量を2,049kt-CO ₂ に減らします。(R9年度)	2,449kt-CO ₂ (R1年度)	2,494kt-CO ₂ (R2年度速報値)				○
	まちの経済を活性化したい	兵庫県が算出している市内総生産(実質GRP)の成長率が国内総生産(実質GDP)の成長率を上回ることをめざします。(毎年度)	-	19,826億円 (R1年度)				
④ 魅力向上・発信	学びと活動を循環させたい	市民意識調査で「生涯学習活動が地域活動につながった」と感じている市民の割合13.1%をめざします。(R9年度)	-	7.1%				
	「まちのイメージ」を向上させたい	市民意識調査で「まちのイメージが良くなった」と感じている市民の割合61.7%をめざします。(R9年度)	56.6%	55.7%				○

財政運営状況

持続可能な財政基盤の確立	収支を黒字にできている	市の貯金である基金を取り崩すことなく毎年度収支均衡を確保できるよう、更なる構造改善に取り組みます。 ※令和3年度は、返還が必要となる補助金等21億円のほか、コロナの影響による一時的な黒字要因が含まれています。	38億円	82億円				○
	借金を減らせている	必要な未来への投資と将来の負担のバランスを取りながら、着実に将来負担の抑制を進めます。(R4年度に1,100億円以下)	1,170億円	1,025億円				○

ま と め

- 新型コロナウイルスの感染拡大が幅広い市民の活動に影響を及ぼしているなか、これまでも取り組んできた市民生活の支えや地域経済の回復に向けた事業に加え、市民の健康、地域等におけるつながり活動を増進していく取組の重要性が増しています。重層的支援の本格化とともに、引き続き、地域の学びや活動を促進する取組を進め、市民の安心やシンビックブランドの醸成に向けて注力していく必要があります。
- ファミリー世帯の転出入は、市内や近隣市の住宅供給状況との相関が確認されており、ファミリー向け住宅の供給と住環境の向上を意識した取組が重要との認識にたち、関連計画の改定を進めます。ソフト面では、待機児童の未解消や教育への市民満足度が長年、低位であることなどを踏まえ、財政との両立を図りながら着実に取組を充実させていく必要があります。
- 本市イメージのさらなる向上に向け、治安やマナー向上に向けた取組を強化するとともに、エアブランディングを意識した沿線ごとのプロジェクトを進めます。また、多くの方に改善を実感してもらえるよう、情報発信力の向上が必要です。
- 尼崎市気候非常事態行動宣言、電子地域通貨「あま咲きコイン」などにより、SDGsや脱炭素の取組を進めており、引き続き、経済と環境の共生、社会生活環境の向上も含めた持続可能な地域社会づくりに取り組みます。